

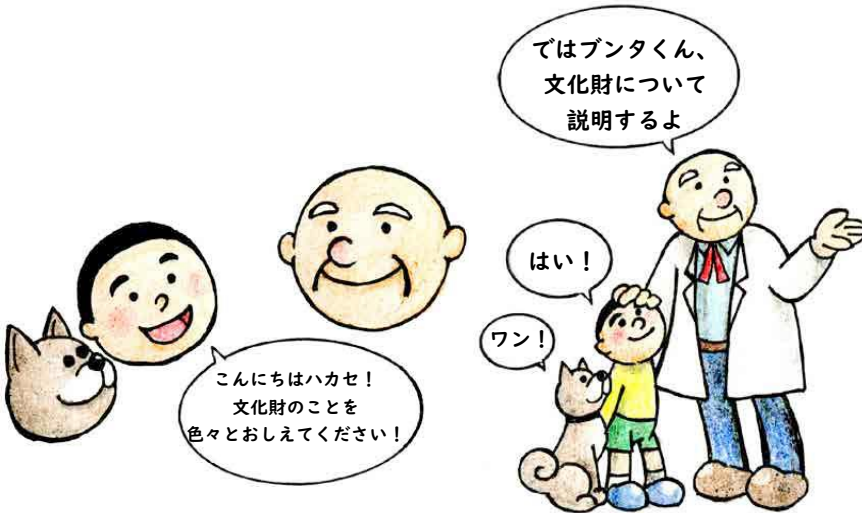
KUSHIRO CITY

釧路市

文化財マップ



BUNKAZAI MAP

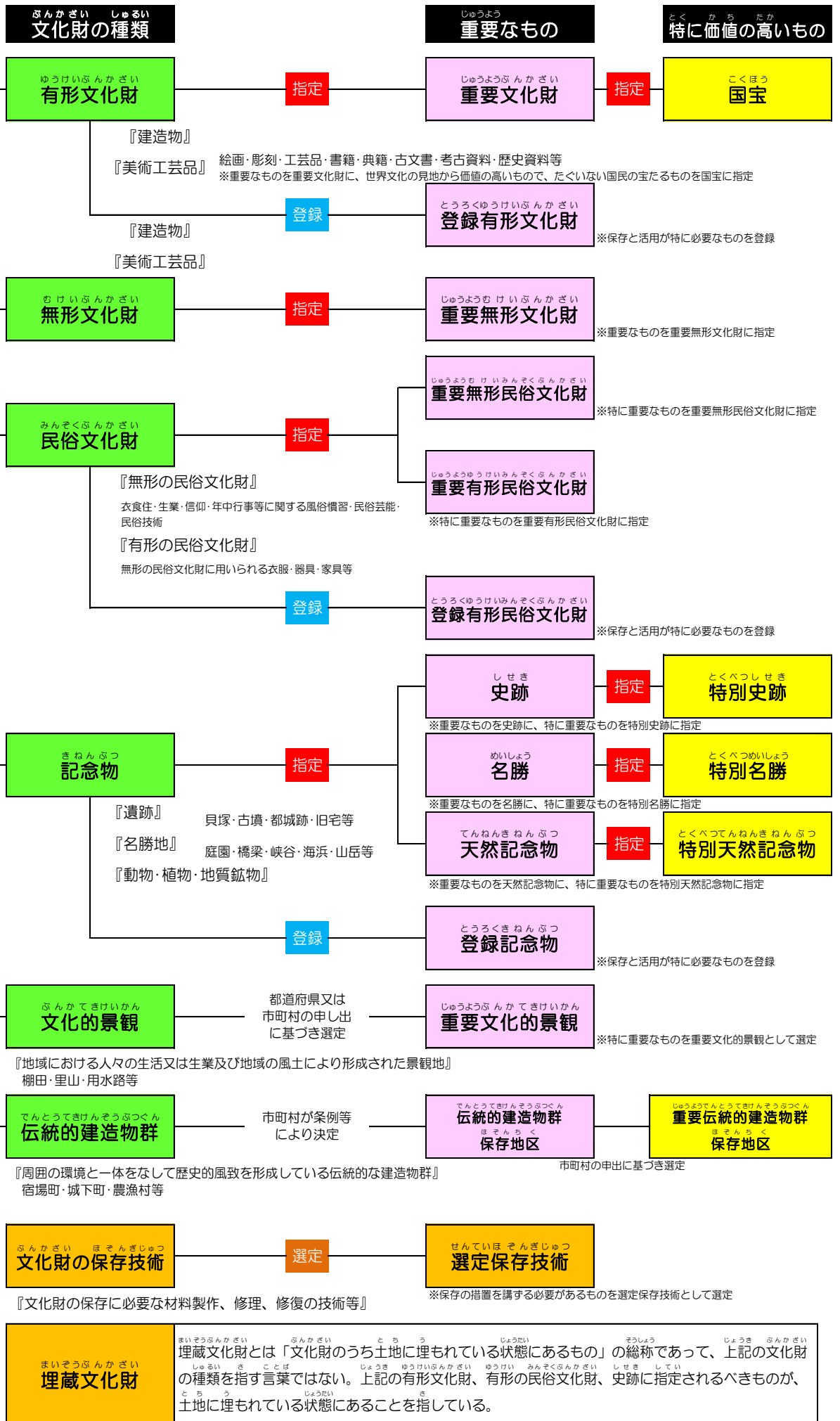


ぶんかざい いっぱんてき ぶんかてき ざいざん
文化財は、一般的に「文化的財産」
「文化遺産」と言われています。形
のあるものないものを問わず、歴史
上、技術上、学術上、高い価値があ
るもの、希少動植物、そして市民の
生活の営みなどを理解するために欠
くことのできないものを言います。
また、歴史ある建造物や美術工芸品
に限らず、生活道具や仕事道具、行
事、芸能なども含まれます。

くしろ し くに どう し してい ぶんかざい いちらん
釧路市の国・道・市指定文化財一覧

ぶん 類	く ぶん	めい しょう	していねんがっぴ	
分 類	区 分	名 称	指定年月日	
ゆうけいぶんかざい 有形文化財	ちようこく 彫刻	えんくうさくかんのんぞう 円空作観音像	昭和52年 3月11日	
		き の けもんじよ 佐野家文書	昭和50年12月12日	
	こもんじよ 古文書	いちかわもんじよ 市河文書	昭和51年12月 9日	
		ほしかぶと さんげつ 星兜 (残欠)	昭和50年12月12日	
	ひじゆつこうげいひん 美術工芸品	こうこしりょう 考古資料	ながくほしゅうじろうにっし 永久保秀二郎日誌	昭和50年12月12日
		れきししりょう 歴史資料	くしろしんぶん 釧路新聞	昭和50年12月12日
けんぞうぶつ 建造物	国登録	とつとりむらほんせき ぼ 鳥取村本籍簿	昭和50年12月12日	
みんぞくぶんかざい 民俗文化財	じゅうようむけいみんぞくぶんかざい 重要無形民俗文化財	国指定	アイヌ古式舞踊	昭和59年 1月21日
	むけいみんぞくぶんかざい 無形民俗文化財	道指定	くしろとつとり ししまい 釧路鳥取きりん獅子舞	令和 2年 5月19日
		市指定	き ねかかぐら 紀ノ丘神楽	昭和61年10月 5日
きねんぶつ 記念物	しせき 史跡	国指定	くしろがわりのういき あとぐん 釧路川流域チャシ跡群 (モシリヤチャシ跡) (ハルトルチャランケチャシ跡)	平成27年 3月17日
		国指定	はるとりだいちたてあなぐん 春採台地竪穴群	昭和10年12月24日
		国指定	ひがしくしろかいづか 東釧路貝塚	昭和45年 7月22日
		国指定	ほくといせき 北斗遺跡	昭和52年 7月14日
		市指定	みつうらぶるやいせき 三津浦古谷遺跡	昭和50年12月12日
		市指定	あかんこ 阿寒湖のマリモ	昭和27年 3月29日
	とくべつてんねんきねんぶつ 特別天然記念物	国指定	たんちょう タンチョウ	昭和27年 3月29日
		国指定	はるとりこ せいそくち 春採湖ヒブナ生息地	昭和12年12月21日
	てんねんきねんぶつ 天然記念物	国指定	くしろしつげん 釧路湿原	昭和42年 7月 6日
		国指定	クマガラ	昭和40年 5月12日
		国指定	オジロワシ	昭和45年 1月23日
		国指定	オオワシ	昭和45年 1月23日
国指定		エゾシマフクロウ	昭和46年 5月19日	
市指定		きたさんしょううお キタサンショウウオ	昭和50年12月12日	
市指定	さがんみやく 砂岩脈(ツド・ストン・ダ ｲ)	昭和50年12月12日		
市指定	やちほうす 谷地坊主(ヤチ ぼうす)	昭和50年12月12日		

文化財



くしろ し ぶんかざい
釧路市にはどんな文化財があるの？

道指定

えんくう さく かんのおん ぞう
円空作観音像
 有形文化財—美術工芸品



もくしつ い なた ぼ
 木質を活かした鈍彫り
 (台座を含めて高さ43cm)

いづくしま じんじや つた ぶつぞう ぞう えんくう
 厳島神社に伝わる仏像で、僧・円空
 (1632~1695年)が蝦夷地(北海道)に渡って彫ったものです。
 この仏像は、礼文華峯(現在の虻田郡)の洞窟にあった5体のうちの1体で、台座のうしろに「くすり乃だけごんげん」の銘があります。
 5体の仏像にあてたそれぞれの山岳に訪ねることが難しいので、この洞窟に背銘像をそろえたと言われています。
 洞窟に残る仏像を釧路に移したのは、当時の幕吏松田伝十郎で、背銘にある山々へ置きたいとのことから、寛政11年(1799年)に有珠善光寺(現在の伊達市)、樽前神社(現在の苫小牧市)、そして釧路市厳島神社へと3体の仏像を移しました。
 のこ たい たい どうくつ ぼこ
 残り2体のうちの1体は洞窟から運ばれておらず、もう1体はどこにあるか不明です。

市指定

さの け もんじよ
佐野家文書
 有形文化財—美術工芸品



くしろ ばしょ うけいしん さの け つた
 クスリ(釧路)場所請負人であった佐野家に伝わる、江戸時代末期から明治初期にかけての証文、荷送り状、書簡など、103点の文書です。
 佐野家は越後(新潟県)出身で、松前に出店した廻船商人でした。幕府直営であった太平洋岸の漁業経営を請負商人に任せたことにより、佐野家がクスリ場所の請負人となりましたが、明治9年の漁場持制度の廃止により経営が中止になりました。その間の経営の一部を示すものです。

市指定

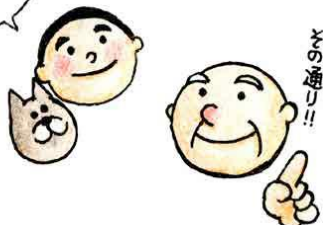
ほしかぶと ざんけつ
星兜(残欠)

有形文化財—美術工芸品



しょうわ ねん みどりがおか どうろ こうじ ちゅう ぼっけん
 昭和43年、緑ヶ岡の道路工事中に発見されました。
 へいあん じたい まつき かぶと はへん さい たいなが うず
 平安時代末期の兜の破片です。14枚または16枚の縦長の薄い鉄の板を張り合わせて作られており、縦1列に8個の「星」と呼ばれる突起がついています。これと同じ型式のものは、国内でも破片を含めて10数例しか確認されていない、とても貴重なものです。

釧路市には
 国や道、市が指定、登録の
 文化財が27点も
 あるんだ！



市指定

いちかわ もんじよ
市河文書

有形文化財—美術工芸品

しなの じどう しょく いちかわ け ぼっかいどう いじゅう
 信濃の地頭職であった市河家が、北海道へ移住したときに携行した文書のうちの1点です。

国登録

きゅうい がら しけじゅうたくし むしよけんおちや
旧五十嵐家住宅事務所兼主屋

有形文化財—建造物



しょうわ ねん くしろし こうむてん いとな いがらしかすおし
 昭和25年ごろ、釧路市で工務店を営んでいた五十嵐一雄氏が
 じたくけんじしよ けんちく もくぞう かいだ けんちくめんせき へい
 自宅兼事務所として建築した木造2階建て、建築面積120平方メートルの住宅です。
 げんかんわき しむしよ ぼうかんだいさく じゆまど にしがわ
 玄関脇の事務所は防寒対策のため2重窓になっており、西側には機能的な造付の設備を備えた台所が家の中央に配置されています。こうした先駆的な試みが戦後間もない寒冷地対応住宅の好例として評価されました。

市指定
ながくぼ しゅうじろう にっし
永久保秀二郎日誌
有形文化財—美術工芸品



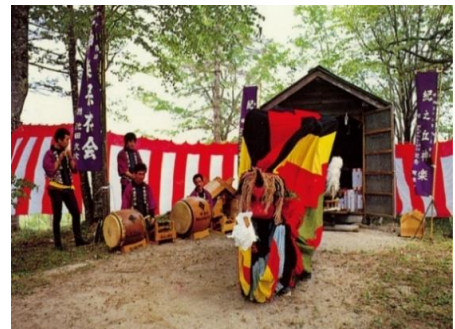
明治24年、釧路聖公会により「春採アイヌ学校(後の春採尋常小学校)」が設立され、主任教師ルーシー・ペイン女史の求めにより、当時函館で教員をしていた永久保秀二郎氏(1849~1924年)が赴任しました。学校での授業の他、アイヌ集落に行き入学を勧めたり、手作りの教科書を子どもたちに与えたりなど、とても熱心な教育活動を行ない、退職後も教え子たちやアイヌ民族と交流を深めました。釧路に移住してから亡くなる直前までの33年間に及ぶこの日誌は、毎日欠かさず和紙に毛筆で書かれており、当時の春採集落の様子を知ることができる唯一の歴史的資料です。現在は、データ化して保存されており釧路市中央図書館ホームページよりだれでも閲覧することができます。

市指定
くしろ しんぶん
釧路新聞
有形文化財—美術工芸品



明治35年に白石義郎氏が釧路新聞(第二次)を創刊しました。後に北海道新聞に継承されます。昭和17年まで発行された新聞が、まとめて保存されている貴重な歴史的資料です。現在は、マイクロフィルム化とデータ化をして保存されており、釧路市中央図書館で専用の機械とパソコンで閲覧することができます。

市指定
き おかか くら
紀ノ丘神楽
民俗文化財—無形民俗文化財



明治42年、福島県相馬市から旧阿寒町に移住した佐藤亥之助氏が伝承を始めましたが、戦時中の中断から後継者が無く、その灯は消えてしまいました。昭和50年頃、亥之助氏の孫など若者12名が中心となり「紀ノ丘神楽保存会」を結成し、翌年はメンバーのうち5名が福島県相馬市へ行き、手ほどきを受けました。しかしその後、平成8年頃から活動が低迷し、後継者が不在の中、現在は活動を休止しています。

道指定
くしろ とっとり ししまい
釧路鳥取きりん獅子舞
民俗文化財—無形民俗文化財



明治17、18年に鳥取県から現在の釧路市鳥取地区に移住した鳥取県土族の子孫が、昭和15年に故郷の鳥取県因幡地方に伝わる麒麟獅子舞を鳥取神社に奉納したことが始まりの民俗芸能です。鳥取県因幡地方の獅子舞の伝承地は同因幡地方と兵庫県但馬地方のほか、北海道の釧路市と利尻町のみで、中でも鳥取きりん獅子舞は、これまで途絶えずに伝承されており、鳥取地区の開拓の歴史的特色を示すものとして特に重要です。

国指定
こしき ぶよう
アイヌ古式舞踊
民俗文化財—重要無形民俗文化財



アイヌ民族に伝承される民俗芸能は、祖先が生活や信仰の中から生み出した独自のもので、アイヌ文化の推移を物語る貴重な文化遺産です。アイヌ古式舞踊は、北海道一円に居住しているアイヌの人々によって伝承されている芸能で、祭祀の祝宴や様々な行事で踊られるアイヌ独自の信仰に根ざしている歌舞です。昔からの様式を留めているものが数多くあり、その内容は、祭祀的性格の強い「剣の舞」「弓の舞」のような儀式舞踊や「鶴の舞」「バッタの舞」のような模擬舞踊、そして「色男の舞」などの即興性を加味した舞踊があります。これらは、いずれも歌と踊り(輪舞)を基本として構成されています。



国指定 釧路川流域チャシ跡群 ①-1
 記念物一史跡



【モシリヤチャシ跡】標高18m、釧路段丘から延びた台地に作られたチャシです。形がお供え餅に似ていることから「お供え山」と呼ばれ親しまれています。モシリヤとは、アイヌ語で「川の中島の向こうの丘」という意味で、かつて釧路川に中島があったことをうかがわせます。このチャシは、宝暦年間(1751~1764年)に実在したトミカラアイノという人物によって造られ、その後も一族が1世紀にわたり利用していたことが記録されています。このようにチャシに関わったアイヌの人々の系譜を知ることのできる道内でも数少ない遺跡です。

国指定 釧路川流域チャシ跡群 ①-2
 記念物一史跡



【ハルトルチャランケチャシ跡】標高12m。春採湖北岸から半島状に延びた台地に作られたチャシです。シグザグに彫り込まれた2本の壕(幅3m深さ1m)が、東西30m、南北15mの範囲にめぐらされています。アイヌの人々の伝承によるとこの場所はトーモシリ(湖の中島)と呼ばれ、トーコロカマイ(湖の神様)の遊び場と伝えられています。チャランケとはアイヌ語で「話し合い」という意味ですが、これは後世の人がつけたものであり本来の呼び名はわかりません。

国指定 春採台地竪穴群 ②
 記念物一史跡

かつて春採湖の周りの台地には、217軒の竪穴住居跡が確認されました。このうち湖の北側一帯が国史跡に指定されており、現在では31軒が地表から窺みとして見ることができます。これらは擦文時代の方形竪穴で、一辺が4~7mあります。史跡に隣接する釧路教育研究センター用地内では、竪穴住居跡3軒が調査されており、擦文時代でも後半の時期(12~13世紀)であることがわかっています。



ひがししろ かいづか
東釧路貝塚

③

記念物—史跡



貝塚は、縄文時代前期(6~5千年前)につくられ、近世かけて利用された複合遺跡です。東西120m、南北90mの範囲に、大小合わせて11のブロックに分布しています。貝層の厚さは1m前後で、内容はアサリが多く全体の7~9割を占めています。カキやオノガイなどと一緒に、暖海性のアカガイやシオフキも確認されています。他にも、トドやアシカなどの海獣類をはじめ、魚類や鳥類の骨も見つかっています。また、イルカの頭骨を放射状に配列したり、ベンガラ(赤い顔料)を散布した屈葬の人骨が見つかることから、貝塚が貝がらなどを捨てる場だけではなく、宗教的な面でも利用されていたことがわかります。

はるとり こ せいそくち
春採湖ヒブナ生息地

④

記念物—天然記念物



春採湖のヒブナは、他の地域に生息するヒブナに比べて、大型で色彩が鮮やかな緋色(明るい赤色)をしています。生まれて1年目は黒い色をしています。2年目からは徐々に赤くなり、その後オレンジ色から白色に変化します。

金魚の変種ではないかという説があり、昭和60~62年にかけて染色体調査をしました。その結果、染色体2倍体の金魚に比べ、3倍体の染色体を持つヒブナは、ギンブナの突然変異であるということがわかりました。

春採湖は市街地であって、面積36.1ha、周囲4.7kmの細長い湖です。昭和後期~平成初期に水質汚濁がありましたが、現在は改善されています。しかし、ヒブナの産卵場所である水草を荒らす外来種ウチダザリガ二が生息しており、駆除のため毎年捕獲作業にあたっています。

さがん みやく
砂岩脈 (サンド・ストーン・ダイク)

⑤

記念物—天然記念物

石炭が生成された古第三紀(約3,800万年前)に、亀裂が生じて上から砂が入って固まったもので「春採太郎」の愛称で親しまれています。

このような砂岩脈は、釧路では知人岬から厚岸湾までの海岸に、大小100本以上あります。それらの岩脈の厚さは一般に10cm以下で、1mを超えるものはほとんど見られません。しかしこの春採太郎は、幅約4m、陸地と海底を合わせた延長が数km、上下方向300mに及び、まさにその規模は日本一です。



みつうら ふるや いせき
三津浦古谷遺跡

⑥

記念物—史跡

東西を沢で囲まれた平らな土地にあり、海岸台地における特徴的な竪穴の立地がみられる集落跡です。

縄文時代中期、続縄文・擦文時代とみられる竪穴35軒が5地点に分かれて分布しています。

竪穴には方形のもの23軒、円形のもの11軒のほか、長軸で15mを超える八角形のもので1軒あります。



国指定
阿寒湖のマリモ⑦
 記念物－特別天然記念物



淡水緑藻の一種で、長さ3～4cmの枝わかれしたいくつもの糸状の藻体が集合し、球状の塊を作ります。光合成植物でありながら、湖の結氷による長期の日照不足に耐えられる特性に加え、球状集合を浅瀬に留めのまま揺り動かす波の発生など、特殊な湖の環境がマリモの生育に複雑に関係しています。球状マリモが育つ湖は世界でも少なく、中でも直径30cmを超える大きな球状集合が群生するのは阿寒湖だけです。しかし、土砂流入、湖水汚濁、盗採などによって、マリモやその群生地が減少してしまいました。現在は、森林の保全や下水道整備などの対策とともに、マリモの保護手法を確立するために、様々な調査・研究が進められています。

国指定
釧路湿原
 記念物－天然記念物



国指定
タンチョウ
 記念物－特別天然記念物

優雅なその姿は、古来より「瑞鳥」(めでたいことが起きる前兆の鳥)として親しまれてきました。体高約1.5～1.6m体重約8kg、翼を広げた長さは約2.4m、シンボルでもある赤い頭部は名前の由来にもなっています。昭和27年の調査ではわずか33羽しか確認できませんでしたが、冬期間の給餌など熱心な保護活動により、現在は約1,800羽のタンチョウが生息しています。



釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村に24,890haの広さにまたがる国内最大の湿原です。タンチョウやキタサンショウウオをはじめ、170種を超える鳥類や希少動植物が生息しており、豊かな自然生態系が維持されています。昭和42年に宮島岬、キラコタン岬の先端を含む中央部5,011.5haが国の天然記念物に指定(指定区域は釧路町、標茶町、鶴居村)されました。また、我が国初のラムサール条約登録湿地であり、昭和62年に国立公園に指定されています。

ほくと いせき
北斗遺跡⑧

記念物—史跡

釧路湿原を望む台地(標高10~15m)に、東西2.5km、南北0.5kmの範囲で、334軒の竪穴住居跡が確認されています。多くは方形の竪穴で擦文時代のもですが、円形や楕円形の縄文・続縄文時代のももあります。また、旧石器時代の終わり頃の石器や、擦文時代の炭化した編糸・編物・組紐・織物などの繊維製品、アサ・キビ・オオムギ・小豆などの植物遺体も発見されており、これらは史跡北斗遺跡展示館で見学することができます。4軒の復元住居があり、自由に見学できます。釧路市湿原展望台まで木道が整備されており、自然を楽しみながら森を散策することができます。



復元住居→

クマゲラ

記念物—天然記念物



日本最大のキツツキです。全長は約46cm、主に北海道に生息していますが、青森・秋田・岩手県の一部でも見られます。阿寒湖周辺の原生林は、北海道有数のクマゲラ生息地としても知られています。

オジロワシ

記念物—天然記念物



北海道内で700~1,000羽が越冬しており、約150のつがい繁殖していると言われています。また、阿寒湖や釧路湿原に数か所の営巣地があります。オスが全長約80cm、メスが全長約90cm、翼を広げた大きさは2mほどにもなります。

オオワシ

記念物—天然記念物



オスが全長約90cm、メスが約100cm、翼を広げると2~2.5mほどにもなる大きな鳥です。世界で約4,600~5,100羽が生息しています。日本では、約1,400~1,900羽が越冬していると言われており、冬の道東でその優雅な姿を多く見ることができます。

エゾシマフクロウ

記念物—天然記念物



全長約70cm、世界で最も大きなフクロウです。北海道では、東部にわずか165羽ほどが生息しています。川沿いの森の大きな木の洞に巣を作ります。釧路市動物園では、1995年に世界で初めて飼育下での繁殖に成功しました。

市指定

キタサンショウウオ

記念物－天然記念物



昭和29年、釧路市北斗付近にあった平戸前小学校6年生の児童たちによって発見されました。

体長11cmほどで、体の色は黒っぽく、背中にオリーブ色の模様、前後足ともに4本指という特徴があります。

キタサンショウウオは、ユーラシア大陸に広く生息していますが、日本では釧路湿原や北方四島の国後島など限られた場所で見つかっていません。氷河期の遺存種として、学術的価値の高い動物です。



わあすごい！
キタサンショウウオの卵だ！

市指定

谷地坊主(ヤチボウズ)

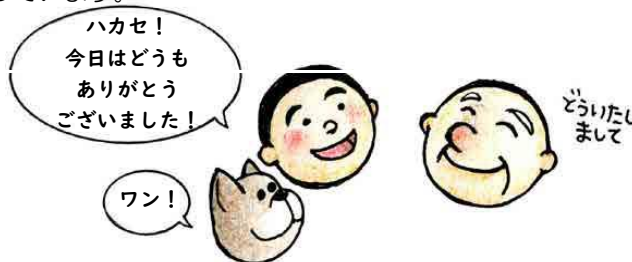
記念物－天然記念物



↑冬のヤチボウズ
←初夏のヤチボウズ

カブスゲなどの株状に生育するスゲ類が、湿地などで高く成長したものです。冬に土壌が凍って株ごと盛り上がり、春先には株の根元の土壌が雪どけ水などでえぐられるといったことが繰り返され、数十年で高さ40～50cmに成長します。

成長した株には、株の上に別の植物の色々な花が咲いたり、アリの巣を作ったり、キタサンショウウオが冬眠場所にするなど、多くの動植物が生息・生育しています。釧路市は、丹頂鶴自然公園内の群落を天然記念物に指定しています。



ハカセ！
今日はどうもありがとうございました！

ワン！

どういたしまして

つち なか たからもの まいぞう ぶんかざい 土の中の宝物、埋蔵文化財

埋蔵文化財とは、土地に埋蔵されている文化財のことをいいます。

具体的には、貝塚やチャシなどの遺構や、遺跡から出土した土器や石器などの遺物（考古資料）のことです。

これらの埋蔵文化財がある土地を「埋蔵文化財包蔵地」といい、釧路市では137箇所が確認されています。発見された遺跡や遺物で重要なものは、指定文化財になっています。



休館日や入館料など、あらかじめ
施設にお問い合わせください。



鉦路市立博物館

さまざまな展示品がたくさんあり、鉦路の自然・歴史・文化について詳しく学ぶことができます。
春湖台1-7 TEL0154-41-5809



鉦路市埋蔵文化財調査センター

博物館に併設しており、鉦路の埋蔵文化財について詳しく学ぶことができます。
春湖台1-7 TEL0154-43-0739



鉦路市史跡北斗遺跡展示館

北斗遺跡で出土した実物資料のほか、復元住居、遺構全体模型を展示しています。
北斗6-7 TEL0154-56-2677



鉦路市動物園

エゾシマフクロウ等希少動植物のほか、キリンやアムールトラ等のたくさんの動物たちをみることができます。
阿寒町下仁々志別11番 TEL0154-56-2121



鉦路市丹頂鶴自然公園

一年を通して美しいタンチョウの姿をみることができます。
鶴丘112 TEL0154-56-2219



鉦路市阿寒国際ツルセンター(タンチョウ観察センター)

タンチョウの生態や習性を詳しく学ぶことができます。
阿寒町上阿寒23線40 TEL0154-66-4011



鉦路市中央図書館

図書資料の貸出・閲覧のほか、館内に併設された文学館にて、様々な郷土資料をみることができます。
北大通10-2-1 TEL0154-64-1740



鉦路市湿原展望台

雄大な鉦路湿原を一望できます。遊歩道から北斗遺跡に向かうことができます。
北斗6-11 TEL0154-56-2424



阿寒湖アイヌシアター イコロ

阿寒湖のほとりアイヌコタンに位置し、アイヌ古式舞踊をみることができます。
阿寒湖温泉4-7-84 TEL0154-67-2727



阿寒湖畔エコミュージアムセンター(マリモ研究室)

阿寒湖のマリモの調査研究や教育普及活動をしています。
阿寒湖温泉1-1-1 TEL0154-67-4660

文化財は
私たちの祖先から続く長い歴史の中で生まれ
育まれてきました。
昔の暮らしぶりや生活の知恵
地域の自然や風土などを知るための大切な手がかりであり
私たちをとりまく自然や文化、これまでの歴史を正しく理解するために
欠かせない重要な財産です。
この文化財マップは
主に国・道・市から指定をうけた釧路市にある文化財を中心に記載していますが
私たちの周りにはたとえ指定されていなくても
貴重な文化的財産がたくさんあります。
文化財に対する理解を深め上手に活用しながら
文化の振興につなげることで、そして
私たちの誇りとして
次の世代に伝えていくことがとても大切です。

令和2年9月

発行 釧路市教育委員会